



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Geographical Study of Local NGO's Contribution to Rural Development : A Case on the Riverside of Jamuna, Bangladesh. [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	MOLLAH, TANJINUL HOQUE
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第12965号
Issue Date	2018-03-22
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/70355
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Tanjinul_Hoque_Mollah_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学） 氏名： タンジヌル ホク モラ

主査 准教授 仁 平 尊 明
審査委員 副査 教授 橋 本 雄 一
副査 准教授 大 沼 進

学位論文題名

Geographical Study of Local NGO's Contribution to Rural Development:
A Case on the Riverside of Jamuna, Bangladesh
(ローカルNGOによる農村開発に関する地理学的研究
—バングラデシュ、ジャムナ川流域の事例—)

・当該研究領域における本論文の研究成果

本論文は、バングラデシュのジャムナ川流域を事例に、ローカルNGOの活動が地域の持続可能な開発にいかにつながるかを、人文地理学的な視点から解明した。主に聞き取り調査によって集められた量的・質的に充実したデータ、および地理情報システムと衛星写真を用いた空間分析にもとづいて、これまで当該研究領域では研究蓄積がほとんどなかったジャムナ川流域の実態が報告されたことは、本論文の大きな研究成果の一つである。本論文の骨子である方法論、教育部門、農業部門、ローカルNGOの最適立地などの研究成果は、査読付きの国際学術誌を含めて、すでに複数の学術雑誌にて発表されている。マイクロクレジット部門の成果も、学術雑誌に投稿中の段階にある。それぞれの研究成果の概要は、以下のようにまとめられる。

研究対象地域の地理的特徴の説明では、個々の条件に注目するのではなく、複数の指標から総合的に判断したことが評価できる。その結果、雨季と乾季による陸域の変化、洪水の危険性、また、乾季において学校や商業センターへのアクセスが困難になることなど、住民の生活にとって現在も自然環境の障壁が大きいことや、道路整備の遅れなどが報告された。

教育部門の分析では、河川流路に近く、不安定な土地に建設されたため、崩壊の危険性が高い校舎が複数存在するという問題が指摘された。学校の分布はローカルNGOの活動拠点の分布と高い相関があるが、ローカルNGOによる教育活動により、児童の生活衛生や自然災害などに対する理解度が向上したことも報告された。

農業部門では、生産の側面では、収益を上げるために理想的な作物の種類と品種が提案されたほか、農家の側面では、ローカルNGOによる農業講習や、マイクロクレジットによる貸付けにより、経済面での効果が上がったことが報告された。

マイクロクレジット部門では、資金の借入れにより、衛生環境が大幅に改善されたり、家電製品の所有率が上がるなど、生活の質の向上につながったことが示された。しかし、メジャーなマイクロクレジット機関（例えばグラミン銀行など）に、貸付けの機能が集中しすぎるという問題も指摘された。

以上のことから、研究対象地域における後進性の要因は、道路整備の難しさ、計画性に乏しい校舎の建築、住民の認識不足などにあることが実証された。これらの問題に対して、ローカルNGOは、住民の近くに活動拠点において、教育・農業・マイクロクレジットなどのサービスを提供してきた。地域の貧困問題を解決するという目的からみて、ローカルNGOのサービスは、個人レベルでは成果を上げているが、集落レベルで長期的に成果を上げているかという点では不十分であることが明らかになった。そして、そのような問題を解決するための方策として、サービスの内容や頻度を考慮して、ローカルNGOの活動拠点を効率的に配置することや、大河川の下流域という土地条件に考慮した計画の重要性が指摘された。

・学位授与に関する委員会の所見

審査委員会は上述の諸点において、バングラデシュの農業部門に関し人文地理学的立場から新たな知見を得たことについて一定の成果を評価し、本論文が博士学位論文の水準に達していることを認めた。その一方で、審査委員会では、この論文に残された問題点についても指摘があった。

農業部門の成果では、複数の作物栽培の分布を詳細に説明した点が評価できる。しかし、従来の農業地理学分野の成果と比較すると、本論文の研究対象地域は面積が広いにも関わらず、地域内の差異に関する論考が少なかった。また、ローカルN G Oの活動については詳細な記述があるものの、その成果を評価するためには、バングラデシュの国家的なマスタープランと絡めた考察が必要であった。方法論では、聞き取り調査やグループディスカッションについて、データ取得の方法に関する説明が弱く、改善の余地があることが指摘された。

しかし審査委員会は、これらの問題点は本論文が達成した成果を根本的に損なうものではないことを認めた。研究課題の新規性に伴うこれらの問題点は、著者がこの地域を対象とする研究をさらに進めていく過程で改善されうるものであると考えられる。

以上のことを総合的に評価し、本委員会は全員一致して、本論文の著者タンジヌル ホク モラ氏に博士（文学）の学位を授与することが妥当であるとの結論に達した。